

令和7年10月11日

令和7年度
女性医師支援・ドクターバンク連携 近畿ブロック会議

和歌山県医師会の
女性支援についての取り組み



和歌山県医師会 理事
濱田 寛子

於：ホテルアバローム紀の国 3階 孔雀の間

和歌山県医師会男女共同参画推進委員会事業

1. 医学生をサポートするための会（日本医師会事業）
2. 研修医レターの発行 年2～3回
3. 「新研修医への講演」の立案・実施
4. 地域における女性医師等支援のための会（日本医師会事業）
5. 女性医師の勤務環境の整備に関する
病院長、病院開設者、管理者等への講習会 → 3年に1回の予定
6. 和歌山県男女共同参画審議委員会参加
7. 女性医師再就業支援・相談窓口
日本医師会女性医師バンクとの連携
和歌山県青洲医師ネットとの連携
8. 研修会・フォーラムなどの託児サービス（日本医師会事業）

医学生をサポートするための会



あらゆるライフイベントを視野に入れ、
多様なキャリアデザインを検討

医学生をサポートするための会

日 時 令和7年9月12日
場 所 和歌山県立医科大学
講 義 出 席 110名

講 演 「医学生のためのキャリア入門
～自分の未来をデザインしよう～」

演 者 広島大学医学部附属
医学教育センター教授・センター長 蓮沼 直子

【内 容】

夫は部活の先輩で、卒後和歌山で結婚しました。子供も生まれ実家がお互い遠いため、協力しながら子育てと仕事の両立を目指しています。自分は外科系のある診療科に進み、後期研修も順調で、専門医を取得しました。さらに専門を深めるため、ある手術の技術を身につけ、和歌山県立医科大学で活躍したいと思っており、そのことを上司に相談したところ、海外のスペシャリストを紹介してくれて、1年くらい勉強しに行っても良いと言ってもらいました。しかし、まだ子供は3歳ですし、国外に長期間研修に行くことは想定していなかったのですが、若いうちに技術をつけたいとも思います。

さて、どうしますか？

上記に対して

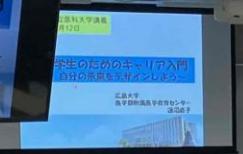
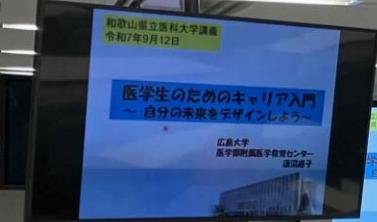
- ①このカップルの問題点
- ②選択肢3つ
- ③そのうちベストと思うものと、その理由をあげる

一人で留学

家族で留学

見合わせ



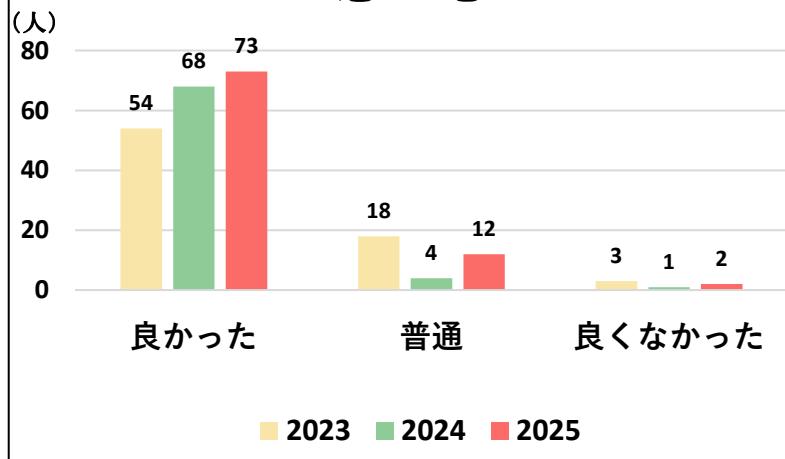


医学生をサポートするための会

アンケートの声

アンケート集計

感 想



- 違った意見を聞いて、自身と異なる考えを身につけられ参考になった
- 具体的な事例が考えられ将来について考える良いきっかけ、経験になった
- 事例をもとにキャリアについて考えることができ、色々な人生のあり方を知れた
- 色々な意見を聞いて同級生たちと価値観を共有できてよかったです
- 難問という点でよかったです
- PBC形式が良かった
- とてもわかりやすい説明で資料ももらえた
- このような討論をしたことがなかったため興味深かったです
- 子供をもってからの実家との関係について初めてイメージできた
- 特に得られたものがなかった
- 意見を聞くのがしつこすぎる
- 内容が自分の想定を上回らなかった
- ワークの前提条件が絞られすぎていて作業性を感じた
- こういったセミナーは必要ないと思う
- 物のセンスがない
- 女性の社会進出を推進する割には子孫を残すという大切な事業が廃れるというの意味が分からないと思った

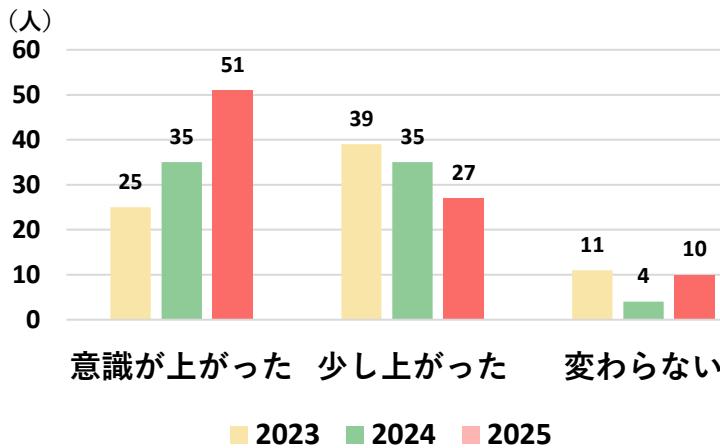
- 留学するの出てくる色々な問題について考える良い機会になった
- 自分には思いつかなかつた発想を得られた
- 色々な事例が聞けて、そういう選択肢もあるんだと参考になった
- グループワークで色々な意見が聞けた
- いつか起きるかもしれない事象について話し合い有意義な時間だった
- 今後働く上でのイメージや大切にすべきことがわかった
- あまり将来のことを考えていなかつたが考え始めるきっかけになった
- 全員が主体的にグループワークに参加して、女性のライフプランについて全員で話せる雰囲気がよかったです
- たくさんの働き方を知れ、新しい視点が得られた
- 医師としての今後の人生を見つめ直すきっかけになった
- 細かい設定がされていなかつたため、様々なパターンが考えられた
- あるケースを想定して、それについて考える事で、思いつかなかつた視点をグループで共有できた
- 卒後の進路自体をあまり知らないため、前提知識が足りなかつた

医学生をサポートするための会

アンケートの声

アンケート集計

意識変化



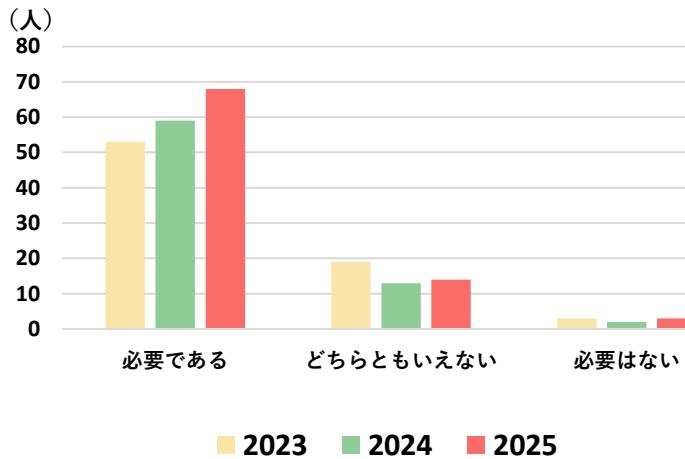
- ・具体例を通じ意識が変わった
- ・女性の活躍が医療の質の底上げになる
- ・自分が当事者になりうる問題だから真面目に考えないといけない
- ・元々ワークライフバランスに意識はあったが今回でさらに考えられた
- ・女性医師バンクの存在を知ることができた
- ・今まで意識してこなかったことを考えられた
- ・厳しい現実を突きつけられたから
- ・そのときの環境に依存するため当事者にしかわからない問題だと思う
- ・新しく得られたものがない
- ・時間が短い
- ・特に意識は上がらなかった
- ・出産がキャリア形成の弊害という考えしかない状況が本当にやばいと思う

- ・留学というジャンルではなく、女性の留学というジャンルでやるのはあまりないので、嬉しかった
- ・女性医師も周囲の協力を得られれば、キャリアと子育てを両立しながら暮らすことも可能なのだという例示がなされていた
- ・グループワークを通して自分自身がワークライフバランスについてどう考えているかや、周りの人の意見も聞いて良かった
- ・今まで考えたことのない問題を考えることができた
- ・自分は男だが、自分のパートナーや職場の女性に対しても気を使わべき
- ・男性も子育て参加すべきだと思う 男女の意見を交わすことは重要
- ・具体的なイメージがわいた 諦めるという選択肢は消えつつある気がした
- ・将来考えないといけない話だと思う
- ・今回のシナリオのように自分だけでなく、家族みんなに関わることだと感じた
- ・周りにたくさん助けを求めるかもしれないが、キャリアを諦めるのはもったいないと感じた
- ・女性医師の支援がどれほど大変か分かった
- ・周りと協力してディスカッションすることができた
- ・どんな問題と解決策があるか、学生のうちから話し合えて勉強になった
- ・男女の認識の違いを感じた

アンケートの声

アンケート集計

活動の必要性



- ・様々な選択肢を知る良い機会だと思う
- ・日本医師会女性医師バンクを知るきっかけになる
- ・男子学生の中には男女共同参画の意識が低い者がいるから
- ・男女双方の理解が必要だと思うから
- ・女性の働き方という将来直面しうる問題について、メリットデメリットを考える機会になったから
- ・全員が考える機会になるからこれからの時代に必要
- ・出産を考えるうえで非常に重要
- ・知識を得ることで意識が変わるとと思う
- ・男女ともに活躍するために皆が考えるきっかけになる
- ・近い将来向き合わなければいけない事柄について予め計画を立てられる
- ・あまり興味がない
・あまり身についたものがなかった
- ・考えるきっかけにはなるが、もう少し後でもいいのでは
- ・ありきたりな内容で、もう少し現実的で具体的なケースを交えたものにしてほしいと感じた

- ・キャリアについて考える事はあるが、結局いつもどうするのがベストなのか個人で考えるのには限界があるので、先例を知れば選択肢が増える
- ・若いうちに自分のキャリアを考えるのに情報が必要
- ・今までキャリアについて考える機会があまりなかったので良い機会だった
- ・意識改革は大切 特に男性の意識改革が必要
- ・他の人の考え方を知る機会は大切だと思う 良い啓発の機会だった
- ・今の時代、キャリアプランが多様になってきて、計画を立てていく方がいい将来につながると思う
- ・これから女性医師は増えていくと思うので、男女関係なく女性のキャリアを考えるのは大切だと思う
- ・こういった支援があることで、一歩踏み出すことができるようになる
- ・皆が意見を出し合うことが大事
- ・女性のキャリアはもっと尊重されるべきだと思う
- ・女性医師の働き方について悩んでいるが、どこで情報を得ていいか分からなかったのでよかったです
- ・5、6年生で考えると、より深まると思う
- ・他のシナリオでも話し合ってみたいと思った

研修医レター

令和5年10月発行



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館
電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530
E-mail : ishikai@wakayama.med.or.jp

医師会って何? (第1弾)

医師会の役割は2つあります。一つは「国民の生命と健康を守る!」こと。二つ目は「医師の医療活動を守る!」ことです。

医師会は任意加入団体ですが、現在全医師

の半数以上が所属しています。医師会は3層構造になっています、令和4年11月時点では、郡市区等医師会に206,213人、都道府県医師会に191,146人、日本医師会に173,761人、所属しています(図2)。

医師会って開業医の会では?と思っている方も多いかもしれません。日本医師会の開業医の割合は39.9%。勤務医は9万人以上が所属しており、52.3%を占めます(図2)。日本医師会では、是非若い皆様に加入をお勧めします。医学部で学んできた医学は「科学」であり、国民に提供している医療は「制度」です。制度にはルールがあり、人によって作られています。この人の作るルールに現場の意見を反映させるために、医師会は動いています。

現場に生きている我々の意見を聞いてもらうためにはどうしたら良いと思いますか?「国民の生命と健康を守る!」ために、日々活動しています。地域に根差した医師会の活動(図3)を見て下さい。地域の時間外・救急対応や行政・医師会等の公益活動、地域保健・公衆衛生活動、多職種連携など多岐にわたりっています。この活動なくしては、地域の医療は成り立ちません。毎日の活動の中でも、医師一人一人が深く医師会活動に関わっていることがわかります。この地道な活動の積み重ねの中で、「もっとこうしたらしいのに。」「これはおかしいのでは?」と言った意見を郡市区等医師会でまとめ、県医師会で話し合い、日本全国レベルであれば、日本医師会から医療政策提案へと進んでいきます。一人でつぶやいても何も変わらないけれど、医師会で意見を集めしていくと動いていきます。現場の声は命です。しっかりと、医師会が受け止め進めて行きます。

入会ご希望の方は、和歌山県医師会

電話 (073) 424-5101

FAX (073) 436-0530

E-mail ishikai@wakayama.med.or.jpまでご連絡を。

図1

3層構造の医師会組織

公益社団法人 日本医師会

会員数 173,761人 (令和4年12月1日現在)

都道府県医師会 (47)

会員数 191,146人 (令和4年11月1日現在)

郡市区等医師会 (889) (令和4年6月1日現在)

会員数 206,213人 (令和4年11月1日現在)



*3層の医師会は、それぞれ独立して運営されています。
現在の現行法では、都道府県医師会に加入するためには郡市区等医師会員であること、日本医師会に加入するためには都道府県医師会員であることが必要

図2 日本医師会 会員数 173,761人

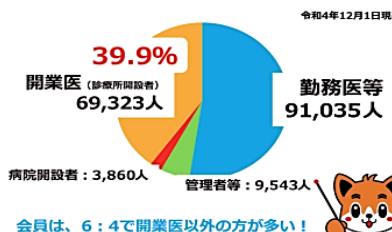


図3 地域に根差した医師会の活動

- 地域の時間外・救急対応
- 行政・医師会等の公益活動
- 地域保健・公衆衛生活動
- 多職種連携
- その他

それぞれの医師会が医療現場を代表して、対応する行政に協力・折衝をしています

研修医の先生方へ、新宮市の一開業医より

谷地 内科医院



谷地 雅宏

私は昭和61年に和医大を卒業しました。当時の卒後研修は自身の希望のものと研修先を好きな期間選ぶストレート方式でした。まず内科全般の経験をしたいと思い、紀北分院内科から始めることにしました。紀北分院は当時内科、外科を始め多くの診療科で構成され、内科は郷里(新宮市)出身の大畠教授がおられました。血液や呼吸器を専門とする教授門下の先生方に加え、消化器内科、循環器内科、代謝内科の各医局から出向されている助手の先生方が構成していました。研修期間の多くを紀北分院内科で過ごさせていただきました。病院から100m程の距離に独身寮と呼ばれる宿舎があり、救急患者や受け持ち患者の急変等があれば我々研修医はオン・コールで呼ばれました。医局と病棟と独身寮で毎日が終わるという生活でしたが、他の研修医の先生方と一緒に机を並べ過ごした期間は、今も記憶の片隅にあり、ふとした瞬間に蘇ることがあります。朝、夕と病棟点滴に周り、準夜勤終了後には夜勤看護師と一緒に点滴詰めを行い、仕事が終

和歌山県内配布

臨床研修病院

9 病院

各病院

83 病院

各郡市医師会

9

文責：和歌山県医師会 濱田 寛子

研修医レター

令和6年10月発行



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館
電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530
E-mail : ishikai@wakayama.med.or.jp

医師会って何? (第3弾)

藤正哉先生に、日本医師会災害医療チーム (JMAT: Japan Medical Association Team)についてご寄稿いただきました。

JMATが担う災害医療



和歌山県医師会

理事 加藤 正哉

医師会は医師を代表する団体として様々な役割を担っています。普段の生活において、国民の生命と健康を守っていることは以前の研修医レターでもお伝えしましたが、災害時にも被災地の内外で、行政とのカウンターパートとして、また様々な関係機関との協働・連携団体として医師会が活動しています。

災害時に医療を提供する組織として有名な DMAT は、1995年の「阪神・淡路大震災」において、平時のレベルの救急医療が提供されていれば「避けられた災害死」が多数存在した可能性を根拠に 2005 年に厚生労働省が設立したチームです。隊員は救命救急センターや災害拠点病院に勤務する救急医や看護師、コメディカルが多く、専門的な研修や訓練を受けて隊員資格を維持しています。皆さんの中には、救急医になるつもりはないけれど、将来災害医療には関わってみたい、と考えている研修医もおられると思います。専門診療科にかかわらず、災害時に被災地で必要とされる医療を医師として支援する仕組みが、日本医師会「防災業務計画」で策定されている JMAT (Japan Medical Association Team) です。

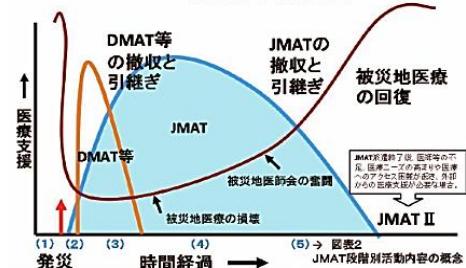
JMAT は医師という専門職のプロフェッショナルオートノミーに基づいて、被災者の生命・健康を守り、被災地の公衆衛生を回復して、地域の医療の再生を支援する活動なので、意欲と倫理感を持って被災地で活動する最低限の知識と体力があれば、誰でも参加することができます。特別な資格はありませんが、都道府県医師会では事前にチームを登録しておくことで、日本医師会が提供している、被災地で活動するに必要な研修を受けることができます。また実際に災害が起きた時は、被災地の医師会の要請によって全国の医師会が協働してチームを派遣しますので、災害医療に興味があって、医療支援活動に関わる意思のある先生は事前登録して頂くことをお勧めします。

都道府県医師会は以前より災害時の「指定地方公共機関」として、防災業務計画の作成や、防災訓練の実施など、様々な防災行政に参画していましたが、2011年東日本大震災での JMAT 活動が評価されて、2014年に日本医師会は災害対策基本法上の指定公共機関になったことで、JMAT も DMAT や日赤救護班と並ぶ災害医療チームに位置付けられています。

図 1 に大規模災害時の JMAT 活動を発災からの時間経過で図に示しました。DMAT は災害急性期にいち早く活動を開始しますが、全国から被災に派遣される JMAT は主に DMAT

の活動を引き継ぐ形で、避難所における医療や健康管理、巡回診療等を行うことで被災医療機関を支援します。実際の活動は、被災地の災害対策本部（保健医療福祉調整本部）のコーディネート機能下に、各保健医療チームや日赤救護班など様々なチームと協働して行われますので、JMAT に参加してみようと思う先生は研修医会員として日本医師会にご入会頂き、JMAT 研修を受講しておくことをお勧めします。

JMAT活動の概念図



平成23年東日本大震災

- ・日本医師会が、都道府県医師会に対し担当地区を指定してJMAT派遣要請
- ・全国から1,400チームが参加 (医師2,200名、総計6,239名)
- ・職種を問わず、日本医師会負担により障害保険加入



文責：和歌山県医師会 濱田 寛子

研修医レター



和歌山県医師会
〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館
電話(073)424-5101代 FAX(073)436-0530
E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

医師会って何? (第4弾)

和歌山県医師会副会長である木下智弘先生に、学校医活動について御寄稿頂きました。県内にある公立小学校、中学校、高校それぞれに学校医が配属されています。きっと皆様もこの活動に携わることもあるでしょう。学校医は医師会から派遣されています。学校医の為の研修も定期的に行われています。

学校保健 医師は学校から何を求められているか



和歌山県医師会

副会長 木下 智弘

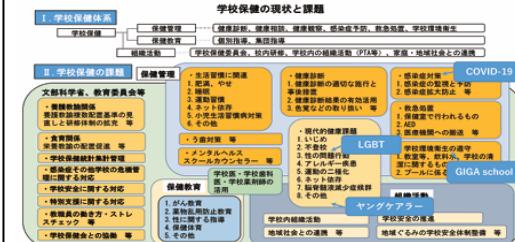
医師会では、地域に根ざした医師の活動として、診療以外に様々な活動を連携しながら地域住民を守るために、地域保健・公衆衛生活動により、生涯にわたり支える重要な役割を担っております。多くの研修医の皆様は卒業後まずは臨床医学を研鑽されると思いますが、このような公衆衛生学の視点をもち、地域医療や予防医療にも積極的に関与してほしいと願っております。

予防接種や各年齢による健診（検診）事業等の地域保健活動は、身近にあるためご存知の方も多いとは思いますが、「学校保健」に関しては未だ馴染みが薄いかもしれません。

まずは学校保健に対し、医師は学校から何を求められているか、医師会として何ができるかを考えてみましょう。

学校保健とは「学校において児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図ること」であり、学校保健安全法で規定されています。その活動は様々であります。私たち医療職（学校医等）が求められているのは主に健康管理、保健指導、保健教育に参画することです。

図（学校保健の現状と課題）にみられるように、現在の学校保健を取り巻く課題は非常に多岐に亘って複雑化し、また最近ではCOVID-19（新興感染症）、LGBT、GIGA school、ヤングケアラー等、新たな課題も表面化しております。時代の状況に合わせて「学校保健」では養護教諭をはじめとする学校教員、学校医、学校歯科医・学校薬剤師など多職種とともに家庭・地域が密に連携して、課題を洗い出し解決策を共に考えていくことが必要となってきます。



このためにも学校において学校医は健康管理（健診）だけでなく、専門的な立場から実践的な生涯にわたる健康教育、感染症対策を推進していく必要があります。

人生100年時代において、生涯を通じ健やかに過ごすための予防活動も医療の大きな役割となります。残念ながら、現状のがん検診等の受診率の低迷等、現在の国民の健康リテラシーは決して高いとは言えず、ひとたび身についた不健康な習慣や喫煙・飲酒習慣などを修正していくことは容易ではありません。そのため健康的な生活習慣の獲得と実践の確立は、子供の頃に身につけていくこと肝要で、子供の健康支援と健康リテラシー向上をさらに推進するために、学校医の積極的役割が望まれます。このような視点から考える

と医師会・学校医の学校保健・健康教育に果たすべき役割は大変重いものではないでしょうか。

このように学校医は、学習指導要領と今般の教育方針に沿った健康教育、健康相談を専門的な知識から助言する立場にあります。学校医は、「チーム学校」の一員、学校の「かかりつけ医」としての認識を持つて学校保健活動に協働していく心構えが必要となってきます。

また、「チーム学校」として、学校医以外にも外部講師による参加・協力が望まれています。健康教育の一環として、特に専門的な知識が必要な喫煙防止・薬物・アルコール予防、がん教育等には外部講師の活用も考えられています。

和歌山県医師会としても、学校医としての課題を明確に示し、学校医活動への支援と学校保健・健康教育の今後の在り方について提言するとともに、県教育委員会・市町教育委員会と連携を深め、学校保健委員会等の活性化等、各学校とも連携を強め、「チーム学校」の一員として推進していきたいと考えております。

研修医の皆様は、学校医としてではなくても学校保健に興味を持ってご自身で何ができるかを考える機会になれば幸いです。



焦らず自分の医師道を

うつのみやレディースクリニック

院長 宇都宮智子

私は、和歌山市内で不妊治療（生殖医療）のクリニックを開業しています。和歌山医大の4年生の講義や産婦人科専攻医研修の受け入れもしているので、私をご存じの先生方もいらっしゃると思います。

研修医のまどか先生と同僚の先生たちのドラマを高校生の次女と毎週見て、ときどき私の研修医時代に担当した患者さんのことや過酷な（？）日々を思い出して涙していました。私はこんなに患者さんと真摯に向き合っていだらうかと思ひながら。先生方も仕事も勉強もプライベートもするがたくさんあります。将来の進路について模索中で毎日生きしていくのが必死という方も多いと思います。

さて、私が行っている体外受精（IVF-ET）ですが、1978年にイギリスでこの治療によりはじめて児が誕生しました。それから5年後に日本初の体外受精児が生まれています。日本では「試験管ベビー」という奇妙な翻訳をされてこのニュースが紹介されました。その当時私は小学生で、「えー！ 試験管で赤ちゃんができるの？」とかなりの衝撃を受けたのを覚えています。

それから浪人生活の後、なんとか和歌山医大に入学。日本卵子学の第一人者である平尾幸久教授の生物学講義を受けて、上記の記憶が鮮明となり、私のやりたいことはこれだと決めて現在に至ります。

生殖医療するためには、産婦人科医にならないといけません。自分と同じ世代の方々が分娩してお母さんになったり、子宮頸がんや卵巣がんで亡くなっていくのを見に見て、自分も家族を持つようと思いました。

幸い育メンの大学の先生と結婚し、大学の保育園に長女を預けることができたため、夫婦とも実家のサポートが受けられない状況であります。しかし、同僚の先生方の協力のものも、国内留学で生殖医療の修行を開始。大学院生をしながら和歌山医大で体外受精施設の立ち上げと診療をしました。その間に産婦人科専門医と細胞診専門医、生殖医療専門医を取得しました。

より充実した施設を作ろうと開業を目指してからは、信用もお金もなく苦労しましたが挫折せず、先輩のクリニックと大阪の不妊クリニックでお世話になりましたが2年ほどで開業しました。開業してからも、夫の協力、保健・学童サービス、家庭サポート、ママ友とクリニックスタッフの支援を得て、一人の女性としても産婦人科医・生殖医療医としてもキャリアと積むことができました。

研修医時代から医師会に入会していましたので、開業してからも人脈を使して産婦人科だけでなく他科の先生方のアドバイスを得て、ステップアップしたいときも立ち止まつたときも乗り越えてきました。

バックナンバー

1~19号まで

和歌山県医師会HP

女性医師支援・

男女共同参画 に掲載

文責：和歌山県医師会 濱田 寛子

新規採用研修医に対する講演

年度	C会員 入会者数	備 考
令和7年	10人	・新規採用研修医に対する講演（医大）
令和6年	2人（32人）	・新規採用研修医に対する講演（医大）
令和5年	14人	・新規採用研修医に対する講演（医大）
令和4年	10人	・新規採用研修医に対する講演（医大）
令和3年	0人	・新規採用研修医に対する講演（医大）
令和2年	0人	* 中止
平成31年 令和元年	2人	・新規採用研修医に対する講演（医大） ・新臨床研修医歓迎会
平成30年	8人	・新規採用研修医に対する講演（医大・日赤） ・新臨床研修医歓迎会
平成29年	1人	・新規採用研修医に対する講演（医大・日赤） ・新臨床研修医歓迎会



地域における女性医師等支援のための会

令和7年度『地域における女性医師支援のための会』
和歌山県医師会 女性医師支援懇談会

～医師が時代と環境に適応する術～

日時：令和7年6月21日（土）16:00～17:30

場所：和歌山県民文化会館 6階 特別会議室B

対象：女性医師（特に産休、育休中の医師） 男性医師も歓迎です
妊活・婚約中の女性医師、女子学生と御父兄も歓迎です

一緒に懇談しましょう！

16:00～ 開会挨拶 和歌山県医師会 理事 森 壽美

16:05～【座長】 和歌山市医師会 理事 進藤 直子

講演

子育て終盤にて女医師 20年を振り返る



講師 たいようファミリークリニック
院長 古宮 圭

16:45～ 質疑応答 交流茶話会

17:20～ 令和6年度 和歌山県医師会女性医師支援の活動報告

令和7年度 活動計画説明 和歌山県医師会 理事 濱田 寛子

17:30～ 閉会挨拶 和歌山市医師会 理事 秋岡 嘉美

2012年、夫の仕事の都合で和歌山に来られました。
3人のお子様を育てられながら、2017年に開業されました。小児科医療の他に、こども食堂、不登校カフェなど幅広く、地域密着の子育て支援活動を展開されています。パワフルな活動が想像できないような、華奢でこやかで柔らかな雰囲気の先生です。これから医師としてのキャリアを考える際にきっと何らかのヒントが得られるに違いありません。
是非、ご参加ください。

古宮 圭（こみや けい）先生 御歴歴
1979年 福岡県飯塚市生まれ
1998年 東明館高等学校卒業（佐賀県）
2005年 順天堂大学医学部卒業
2007年～2011年 東京都立駒込病院と墨東病院にて
臨床研修と卒後研修（小児科）
2011年～2012年 駿河台日本大病院小児科にて
小児糖尿病を学ぶ
2012年 二人目の子どもを出産後にすぐに夫の仕事のため
夫婦で和歌山日赤へ
夫の仕事である国際救援で海外出張が多くなり、
両親を和歌山に呼び寄せる 三人目出産
たいようこどもクリニック継承して開業
2017年 海南省教育委員会就学指導委員
2019年 医療法人たいようファミリークリニックに名称変更
たいよう教室開室
2021年 高野山診療所小児科医として月に1回勤務
2023年 一般社団法人 てらす／不登校カフェ開業
仕事、カフェ、こども食堂と日々の勉強
こども3人の子育て、息子の硬式野球でてんてこ舞いの
毎日です。 どうぞよろしくお願ひいたします。

主催：日本医師会女性医師支援センター 共催：和歌山県医師会

*出席申込・託児希望は裏面をご利用ください。



地域における女性医師等支援のための会

< 参加者アンケートより >

- 女医として人生設計を考える参考にさせていただきたいです。
- 社会、世の中全体を健康にしていくために何かできるか考えようと思えました。
- 女性医師が子育てをしながら、積極的に医療だけでなく様々な形で地域に貢献している姿を知ることができてよかったです。
- うまくやっていらっしゃる先生のお話に、私の脳内の可能性を広げていただきました。
- 性別に関わらず、働きやすい環境になっていくために、どのような活動が行われているか、まず知ることができました。
- これからキャリア形成について、大変前向きな話をきかせていただきました。
- 結婚・出産のタイミングについて考えていたので、すごく参考になりました。
- 支えていただけるシステムがあるということを知れました。
- 良いお話と、からの医師のお顔が見れました。
- 具体的な話が参考になりました。
- 娘を支えるのに勉強になりました。
- 交流ができてとても良かったです。



女性医師の勤務環境の整備に関する 病院長、病院開設者、管理者等への講習会

日時：令和5年9月30日（土）15:00～17:00
場所：アバローム紀の国4階 羽衣の間

【開会の挨拶】和歌山県医師会 会長 平石英三

【司会】和歌山県医師会 理事 加藤正哉

1. 医師会作成の動画(16分)

かがやけ女性医師！
みんなでつくる『働き方改革』



2. 令和5年5月実施の『施設長・部署長へのアンケート』結果報告

和歌山県医師会 理事 濱田寛子

3. 医師の働き方改革と『女性が働きやすい医療機関』認証制度について

座長：和歌山県立医科大学附属病院 副病院長 川股知之

講師：三重県立総合医療センター 院長 新保秀人

4. シンポジウム

座長：和歌山県立医科大学附属病院 副病院長 川股知之

シンポジスト 三重県立総合医療センター 院長 新保秀人

日本赤十字和歌山医療センター病院長 山下幸孝

和歌山県立医科大学 医学部公衆衛生学教室 准教授 北野尚美

和歌山ろうさい病院呼吸器内科部長 辰田仁美

副会長 上林雄史郎

【閉会の挨拶】和歌山県医師会

【交流会】 17:00～19:00
講演会終了後、ささやかではありますが
交流会（食事会）を予定しております。
ご多忙とは存じますが、是非ご参加
下さい。



主催：和歌山県医師会 共催：日本医師会



各都道府県医師会における女性医師支援の取組

① 働きやすい柔軟な勤務形態（時短・在宅・当直免除）など職場環境の整備

＜ 苦労した点 ＞

- ・ 子育て中は、時短のパートにしていたが、仕事量は変わらなかつたので食事や休憩時間を削って仕事していたので苦労した
- ・ 健診のバイト（単発）の日に子どもが病気になると、預け先を探すのに困った
- ・ 職場のTOPが認めて、職場が許容しない
- ・ 院長が一人で頑張ることは多々あった
- ・ 私の頃は、時短・当直なしというためには、勤務先を変えることが条件だった

＜ 工夫した点 ＞

- ・ 子育て中は、15時～15時半までの時短、当直免除の職場で働くようにした
- ・ 当院の子育て世代のNSには、人数多くパートで雇用し、休みやすいようにした
- ・ フレックスタイム・在宅ワークを取り入れた
- ・ 勤務先、自宅、子供の保育先、子供の学校、スーパーなどをなるべく近くにし、移動時間の短縮を考えた
- ・ いかに職場に必要とされるか
人の嫌がる部分の仕事を受ける時、日々駆け引きをしつつバランスを見極める
- ・ うるさい人達を黙らせる工夫、コミュニケーションを心がける
- ・ 出産後は、時短・当直なしの働き方ができる病院に変えて、仕事を続けた
- ・ 子どもが小学校に入学したのを機会に、今まで夕方の申し送りが時間外（定時17:15 申し送り17:30）だったところを17:00スタートにしてもらった（子供の迎え時間のため）
- ・ 給料額に影響があるため、時短はせず、フルタイムだが時差出勤（30分前倒し）制度を利用している
- ・ スタッフの臨時の休みについては、スタッフ間で相談し、カバーしてもらっている
(管理者は、後でOKを出すだけ)

各都道府県医師会における女性医師支援の取組

② 意識改革とロールモデルの育成（女性医師の活躍の可視化、管理職登用）

< 問題点 >

- ・女性医師の中には、子育てや親の介護で仕事を自らセーブする方が沢山いるので、非常に人材の損失が大きいと思う
- ・女性ばかりなので、女性同士のトラブルがある
- ・できるスタッフが、ミスをしやすいスタッフを叱る…など
- ・意識改革は幼少期から。 一度備わった価値観を変えるのは至難の業

< 取り組んでいること >

- ・若い医師が、やる気が続くような支援が必要と思う
- ・やる気のある女性が活躍できるのはもちろんだが、やる気を出せる環境作りに尽力していきたい
- ・キャリアにおいて多様な選択肢がある中でのキャリア教育には、受け取り方も様々なものになる可能性があると感じた
- ・研修医、研修医指導の先生方にターゲットを合わせて働きかけを行い、県行政・県立医大・県医師会・県病院協会の4者による女性医師関連の企画が実施され、バージョンアップしたと感じた
- ・子供の頃から性別による役割なんてない事を教える 能力があるなら、それを生かす選択をしていい事を助言する
- ・夫は平成生まれにも関わらず、育児や家事は基本妻の仕事という考え方だったので、子供が生まれてから少しづつ考え方を改革していっている
- ・医大生に、ワークライフバランス講義を実施させていただいたところ、興味の有無に関わらず該当学生全員が参加することもあり、それなりの反応や医師会活動に対する興味も奏功したと感じた
ただ、医大6年間で1単位のみであるため、今後大学側のご了解の上、複数回実施できれば望ましいと考えている

各都道府県医師会における女性医師支援の取組

③ 制度（産休・育休・託児施設など）と運用の両立支援

< 困っている点・その他意見 >

- ・ 保育園の優先順位は皆平等のため、入園確保が困難
- ・ 進学後、放課後のケアが大変
- ・ 産休、育休はともかく妊娠中の業務の割り振り、軽減に対する男性職員の風あたりが強い
- ・ 職場内に託児施設、病児保育があれば両立しやすいと思う
- ・ 子供が生まれる前に、両立できる制度を知っていると安心だと思う
- ・ 職場併設の託児所はあるが、異動が多いため、異動の度に託児施設を探さないといけない
- ・ 時短になると、給料が著しく下がってしまい、それをカバーするために外勤に行くと結局就業時間は変わらない
- ・ 病院での外勤先生は充実しているようだが、クリニックレベルでは、院長1人なので個人の診療時間設定などで対応しているのでしょうか？
- ・ 学校帰りの子が立ち寄れる場所や、緊急時の送迎の工夫（タクシーディスカウントなど）
- ・ みんなで育てる工夫をクリニックや病院単位でできれば…
- ・ 育児支援制度に関して、女性医師のスポット勤務対応の制度があるが、病院数も多く女性医師数も多い大都市と、当県のような人口分布もまばらな地域事情を鑑みると大都会と違う工夫も必要かもしれない

< 上手くいった成功例・その他意見 >

- ・ 前例が大切だと思う
育休をとった若手外科医になれればと思っている
- ・ 女医の子供が急病で困っている際、日医女性医師支援センターに電話相談したところ、付近の病児保育小児科対応医院をピックアップしてもらい、大変助かった
- ・ 夜勤を上手く活用して、フルタイムで働いている
- ・ 自分は産休時には大学院生だったので、時間的に余裕があった

各都道府県医師会における女性医師支援の取組

④ その他（働き方の多様性・公平性などについての工夫点・意見など）

- ・ 0～2歳児のいる家庭は、男女に関わらず医局費を免除してくれている
- ・ 夫もサラリーマンで、雇用形態も同じなので、子供のお迎えや育児全般、基本的には半分するよう伝えている
- ・ まず研修先の病院や科を決める際に女医が働きやすい環境が整っているかも考えているので、そのような病院が増えてほしいと思う
- ・ 多様性をとると、公平性が難しい
- ・ まずはやってみる
最初は驚かれても、繰り返すことでそれが当たり前となり、たたみ込む
- ・ 公平性を意識している時点で、性差を意識している
女性の働き方の多様性を認める前に、男性の多様性を認めなければ不可である
それさえあれば、それが女性であっても問題は少ないと考える
- ・ 医師免許を取得しても、レベルは様々だと思う
自分自身のできることを自覚して、働き方を決めることが大事かと思う

和歌山県が実施している「青洲医師ネット」事業について

令和5年8月29日 県医務課

概要

青洲医師ネットは、和歌山県内で働きたい医師と医師を募集する医療機関の間に立ち、**医師の働き先を紹介する事業**

採用実績

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
求人掲載数	170	170	169	157	156	155	153	154	151	149
青洲医師ネットに登録した求職者数	3	2	2	1	2	4	5	6	0	0
採用者数	1	1	2	1	0	0	1	0	0	0
採用先	和歌山県	白浜はまゆう病院(外科)	白浜はまゆう病院(内科)	今村病院(外科非常勤週1回)	—	—	和歌山県	—	—	—

【補足】

・紹介者 84名 (うち女性11名)

・採用実績 20名 (うち女性 2名)

女性医師の希望勤務先は、公衆衛生医師が多い。

しかし、公衆衛生医師として採用されたのは、

過去7年で2人。公衆衛生医師の確保は今後も課題。

参考

採用までの流れ

① 求職者が青洲医師ネットに医師登録



② 本人の意向を確認後、該当する医療機関に県から連絡



③ 求職者と医療機関が直接やりとりをして採用が決定

女性医師支援策

➤ 出産後の職場復帰を支援

和歌山県立医科大学のワークライフバランス支援センターと連携して女性の職場復帰のお悩み相談や復職支援を実施

➤ 情報提供

「女性医師のための子育て両立支援」として専用サイトにてわかやま子育て支援ポータルサイトやファミリーサポート等の情報を掲載

医師会主催の研修会等への託児サービス併設費用補助について

2023年6月7日

(要旨)

各地域の医師会が主催する研修会、講習会、講演会等に託児サービスを併設するための費用を補助し、育児中の医師に対して学習機会を確保することにより、勤務継続及び復職の支援を行います。

1.対象	都道府県医師会または都市医師会が主催する研修会、講習会、講演会等。 ※従来、「営利団体等との共催によるものを除きます」としておりましたが、営利団体等との共催につきましても対象とします。
2.期間	令和6年4月から令和7年2月実施分
3.申請方法	県医師会が県医師会および管内の都市医師会開催分をとりまとめ、申請書および支出明細に領収書の写しを添付して申請します。（限度額以内） なお、締め切りは、令和6年4月～11月実施分を令和6年12月5日（必着）、それ以降に開催された分については、令和7年2月28日（必着）とします。
4.問合せ	和歌山県医師会

ベビーシッター業者と
契約済み



都市医師会会長、理事の皆様へ

1. 和歌山県医師会 男女共同参画推進に対するご意見、ご要望、ご感想をお寄せください。
2. 担当地域でご活躍のロールモデルとなるような、ご夫婦、女性医師、女性医師らを支援する上司（病院長、病院管理者、医局長など）をご紹介下さい。

苦労した点、工夫した点など情報交換をしてまいりたく存じます。

和歌山県医師会 男女共同参画推進委員会まで

担当：濱田、森、加藤、山本まで

TEL: 073-424-5101 FAX: 073-436-0530

E-mail ishikai@wakayama.med.or.jp

hamasan@naxnet.or.jp (濱田)まで

令和7年8月2日

女性医師、医療従事者等の勤務環境整備に関する 病院長、病院関係者、管理者への講習会



大浦 真紀先生

女性医療従事者のための職場環境改善
～共に歩んできた道と未来～



井上 茂亮先生

『救急医療で輝く女性医師』
～柔軟な勤務と多様なキャリア支援による
定着率向上の秘訣～



岡田 真理子先生

医療現場の働き方と人権
～安心して働くことのできる職場環境のために～



ご清聴ありがとうございました